可茂農林事務所の普及活動状況（8 月）

今月の重点活動

■指導農業士　**中濃ブロック合同研修会の開催**

【研修会の様子】

可茂・中濃・郡上管内の指導農業士は、会員相互の経営等について情報交換を行うため、持ち回りで合同研修会を開催しています。8 月 23 日、美濃加茂市にて可茂地区指導農業士会主催で、中濃ブロック指導農業士会合同研修会が開催され、各地区の指導農業士及び関係機関 29 名が出席しました。

可茂地区指導農業士の経営として、バードグリーンの緑化樹木苗生産、ヤマキ農園の六次産業化の取り組みを説明した後、ぎふ清流里山公園での体験農園の取り組みなどを視察するとともに、中濃および郡上地区の指導農業士とも和やかに交流を深めることができました。

農業普及課は、担い手育成などに尽力される指導農業士の活動を積極的に支援していきます。

（地域支援第二係・加藤昌亮、黒川純子、加藤瑞穂）

新たなブランドづくり

■ **栗**　**「えな宝来」の産地化に向けて**

【打合せのようす】

可茂管内の栗の収穫期を迎えています。可児市の「えな宝来」は 8 月 12 日（前年より 2 日遅い）に収穫が始まりました。極早生品種である「えな宝来」は梅雨明け後の高温乾燥による品質への影響が懸念されていますが、管内の栗産地の中で夏期の降水に恵まれる八百津町では、同品種の導入を計画しています。

みのかも栗振興会の下部組織として「八百津支部」を新設して八百津町の生産者の組織化が実現し、同品種の苗木入手が可能となったことより、今後、八百津町での栽培を開始する予定です。

一方、八百津町には和菓子屋さんが 4 軒あり、地元産の栗が積極的に利用されています。同品種の産地化を見据えて、加茂農林高校産の「えな宝来」を原料とした栗きんとんを和菓子屋さんで試作検討してもらうよう検討会を開催しました。昨年度の同品種の加工適性評価はまずまずであり、今年度は異なる和菓子屋さんで試作をしてもらい町民等を対象にして試食・評価を実施する計画です。

農業普及課では、「えな宝来」の産地化を進めるため、町、ＪＡ及び和菓子屋さんとの連携推進体制構築のための支援を行っていきます。

（園芸産地支援係・宮田洋輔）

売れるブランドづくり

■新技術導入普及支援事業　**ドローンによる殺虫殺菌剤散布**

【殺虫殺菌剤散布作業】

農業普及課では、新技術導入普及支援事業「環境に配慮した無人航空機（ドローン）の活用によるスマート農業の実践」にて、ドローンによる空中散布の状況把握と経済効果の検証に取り組んでいます。

7 月 30 日、御嵩町の担い手ほ場にて、ドローンによる水稲殺虫殺菌剤の散布について調査を行いました。散布作業をビデオ録画するとともに、作業にかかる時間や作業時の騒音等について記録しました。

農業普及課は、今後も生産者の経営に役立つ新技術の普及に積極的に取り組んでいきます。

（地域支援第二係・加藤瑞穂）

■水稲　流し込み施肥による飼料米増収の検証

近年、飼料米の生産量が伸び悩んでいるため、省力でかつ増収が期待できる栽培方法が求められています。

そこで、8月19日に富加町で通常の栽培より追肥回数を増やすことで肥料の量を多くし、簡易に散布することのできる液肥の流し込み肥料を使った試験を行いました。

今後、葉色測定により、流し込み肥料が均一に拡散するかどうか調査し、また、10月には、収量性などの効果を調査する予定です。

【流し込み施肥の様子】

農業普及課では、新しい技術等を紹介しながら、引き続き支援を行っていきます。

（地域支援第一係・三輪俊貴）

■ 花　ファンシーマリエ栽培にドライミストを試験導入

夏期の高温対策のため、県農業技術センターが、ドライミストを東白川村の切り花フランネルフラワー「ファンシーマリエ」生産者のハウスに設置し、現地試験を始めました。ドライミストは、湿度を高めずにハウス内温度を下げる装置であり、8月10日から稼働させています。

8月15日に農業技術センター研究員と農業経営課花担当と共に生産者を訪問し、ドライミストの稼働状況の確認や栽培管理の指導を行いました。ハウスでは秋出荷に向けた管理が始まっており、農業普及課は、ドライミスト導入効果を関係機関と連携して調査するとともに、高品質な切り花生産に向けた害虫防除やかん水作業を中心に管理の助言を行っていきます。

【ドライミストの稼働状況】

（園芸産地支援・広瀬貴士）

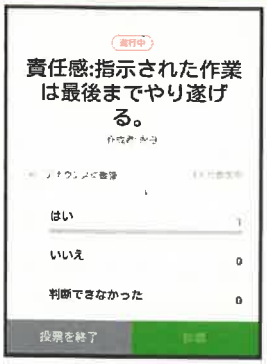
多様な担い手づくり

■ 美濃白川夏秋トマト部会　あすなろ農業塾長会を開催

8月9日に、美濃白川夏秋トマト部会に所属するあすなろ農業塾長の7名が集まり、塾長会を行いました。

美濃白川夏秋トマト部会では、研修生が基礎的な管理作業を身につけた段階で、受入塾長以外の6名の塾長の下で学ぶ日（以後「遠征研修」）を1日ずつ設定しています。

今回の塾長会では、「遠征研修を通じて、研修生の資質を全塾長で評価する仕組みを構築する」ための議論を行いました。話し合いの結果、「塾長会のSNS会議室の投票機能を活用して研修生の評価を行う」仕組みを構築して試行する事となりました。今後、研修生が就農して大丈夫かを判定するために活用できるよう練り上げていくことにしました。



【SNS会議室での投票】

その他、農業塾長が研修生受け入れにあたり活用できる事業の知識を広げる目的で、「農の雇用事業」について検討し、農業次世代人材投資業と比較して有利な点・不利な点を整理しました。農業普及課では、塾長会の活動を今後とも支援していきます。

（園芸産地支援・永田真一）